



亀井神道流 西日本吟詠会総本部 広報部
題字：波多江啓峰



太宰府天満宮仮御本殿

太宰府天満宮仮御本殿 屋根は「浮かぶ森」

太宰府天満宮(祭神菅原道真公没後1125年の節目となる式年大祭は、4年後の令和九年に斎行されます。令和の大改修として始められた本殿大改修に伴う仮本殿が完成しました。

その屋根は「浮かぶ森」と呼ばれる独創性に富んだ構造となっています。令和に相応しく「周りの豊かな森の四季と繋がる建物」で、樹木や草花を植栽した、正に「浮かぶ森」が出現しています。

設計は、国内外で活躍している建築家の藤本壮介氏で、設計のイメージは「飛梅伝説」をモチーフにしたとされています。

さて、残暑が続いていますが、立秋から三週間、暦の上では季節は既に秋です。秋の気配を感じるのもう少し後になるかと思いますが、ここでは道真公が亡くなられた前年、つまり延喜二年五十八歳の秋に詠まれた詩歌をひも解いてみましょう。

この秋、「燈滅す」「秋月に問ふ」「月に代つて答ふ」等の詩中、「月」を題材に賦された詩が散見されます。

和歌にも次のように「月」を詠み込まれています。

「月ごとに 流ると思ひし 西の空にも とまらざりけり」
真澄鏡

「月の夜ごとに、月は西に流れるが、又東へ帰って行く。自分はいつ帰れるのだろうか。いやいや自分には帰れる時は来ないであろう。」と、東へ帰る月と我が身をくらべられて帰京の望みを諦められたかのような心境を歌に託されました。

又、「九月尽」と題する次のような七言絶句を賦され、行く秋とご自身の心情を重ね合わせています。

「今日 二年の九月尽」

此の身 五十八廻の秋
何事をか思量して 中庭に立つ
黄菊の残花 白髪の頭

「今日は延喜二年の九月三十日です。

我が身の五十八回目の秋も過ぎようとしています。

秋は過ぎ去ろうとしているのに、何事かを物思ひして中庭に立っています。

見れば黄菊の残花は色あせ、我が頭は白髪、心の秋はいや増すばかりです。」

この頃、道真公は病を發せられ、衰老を感じるようになられます。今では、秋の季語ともなっている「九月尽」には、道真公の寂寥の思いが込められていると申せましょう。



亀井神道流 宗家
西日本吟詠会 会長

諫山 岳陽

残暑お見舞申し上げます

今夏の暑さは、猛暑を越えた酷暑というより極暑とも形容すべき高温の連続でした。

暦の上では「初秋」ですが、厳しい残暑が続いています。

会員及び後援会員の皆様におかれましては、ご壮健にて過ごしのことと拝察致します。

又、露末期には、久留米、朝倉地区を中心に豪雨に見舞われました。何かとご苦労されたこととお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスの取り扱いが、五類に移されましたが、蔓延が収束した訳ではなく、予断を許さない状況は続いています。自分の命と健康は自分で守る心構えは大切ですので、これまで通りマスクの着用と手洗い消毒は続けて行きたいものです。

さて、一年で最も暑いといわれる土用の丑の日は、ウナギの話題で持ちきりですが、江戸時代の

博物学者で発明家、作家、画家、陶芸家として知られる平賀源内とウナギのエピソードは有名です。あるウナギ屋の主人に商売

繁盛の名案はないかと問われた平賀源内は「本日土用の丑の日」と二筆したため、「これを戸口に貼っておくように」とアドバイ

スしたところ、店の前には長蛇の列ができた、との逸話はとくに有名です。

実は、ウナギは古来より栄養豊富な食品として珍重されていた

ようで、万葉歌人大伴家持の歌に「石麻呂に 吾物申す 夏瘦せに 良しといふものぞ うなぎ漁り 食せ」と詠んでウナギを催促していることが伺えます。

家持の歌にもあるように、昔から「夏痩せ」という言葉があります。これは所謂今でいう「夏バテ」のことでしょう。夏バテとは一般に、「夏の暑さによる自律神経系の乱れに起因して現れ

る様々な症状」、つまり暑気あたり、暑さ負け、夏負けと言われるものですが、俳句の「秋の季語」にもあるように、本来は、「秋口に体調を崩した際、夏に体力が弱った影響で体調を崩した」という意味であり、「夏の時期で体調の悪さを表すのは誤用である」とも言われています。ともあれ、初秋の今の時期こそ健康管理にご用心とのシグナルでしょう。

夏バテのポイントは、水分をしっかりと補給し、ぐっすり眠って体を休め、軽い運動をして発汗能力を上げ、そして栄養バランスの良い食事を摂ることに尽きると思えます。

今年もかけがえのない吟友との別れがあった。特に現役の重要な人材を失ったことは残念で、その喪失感は大きく「盛者必衰・会者定離」という言葉が空しく響くばかりです。人生100年時代の到来とよく語られるが、まだまだ不治の病との戦いは続きそうです。名刺入れには名刺より病院の診察券が増え、結構な膨らみ状態です

が、これも日本の医療制度の充実と思えば、苦笑いするばかりです。

せめて若いころ貝原益軒の「養生訓」に目を通し、その中のいくつかでも実践していれば、少しは病院通いも減っていたかと反省しているのですが…。ここに至っては、益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

この秋には、会員のみ参加による秋季懇親吟詠大会を開催する予定で準備を進めています。九州吟剣詩舞道連盟秋季大会や福岡県吟詠剣詩舞連盟秋季大会更に太宰府市吟詠剣詩舞連盟四十周年大会、ポリドル全国吟詠コンクールも開催され、愈々吟秋へと続いて参ります。合吟コンクール等への参加を始め、会員の皆様の更なる活躍を大いに期待しています。

最後になりましたが、会員及び後援会員の皆様並びにご家族の皆様の益々のご健勝と更なるご長寿を心から祈念申し上げます。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

益軒の金言「老後の一日、千金に当たるべし」の言葉を噛みしめながら、一日一日を大切に過ごして行きたいと思う今日この頃です。

筑前勤皇党始末記〈後編〉

―黒田藩「乙丑の獄」―

前号に引き続き「乙丑の獄」について述べましょう。「乙丑の獄」とは、幕末の慶応元年（一八六五年）筑前福岡黒田藩で起こった佐幕派による勤皇派弾圧事件で「乙丑の変」又は、「乙丑の政変」とも呼ばれた大事件です。

前号で、主な首謀者の月形洗蔵らの処分と彼らが残した詩歌を紹介しましたが、ここでは、当時流行した勤皇歌の作者と歌風、並びに生き延びていけば勤皇党の首領格として重い刑罰を受けたと思われる勤皇の志士平野國臣の活動と活躍、そして國臣が残した詩歌を紐解いてみましょう。

当時、勤皇の志士のみならず、勤皇の志が厚い人々の間で、盛んに詠まれた歌風に、いわゆる勤皇歌があります。上は皇族から貴族、僧侶に至るまで、盛んに作つたと言われています。

その中で、勤皇家中第一の歌人と呼ばれたのが、国学者佐久良東雄と評されています。実は、彼らに混じって勤皇歌人として高く評価さ

れているのが、この獄で共に斬首された瀬口三兵衛と大神壱岐守です。

又、万代十兵衛常德も、後日、新報国百人一首に選ばれたほどの歌人でしたが、彼は珍しく、俳句で辞世の句を残しています。



新報国百人一首の「万代十兵衛常德」和歌

「咲かぬまの 嵐に散るや 山桜」
(万代十兵衛)

次に、瀬口三兵衛と大神壱岐守の歌をご紹介します。

「なかなかに 死ぬこそまされ

夷の国に 貢せんより」
(瀬口三兵衛)

「愛でて見し 萩もすすきも 冬枯れて

野の辺さびしく なりにけるかな」
(大神壱岐守)

次は、二十石六人扶持乍ら、勘定奉行、到来奉行などを歴任し、

斬首された海津幸一と、六百石の自身で大目付を務め、自刃した齋藤五六郎の辞世の和歌をご紹介します。

「竹の杖 つくともつきし

うき節しげき 世をたどる身は」
(海津幸一)

「天地に 恥じる心は 消えて行く 露の命の 露ほどもなし」
(齋藤五六郎)

「乙丑の獄」ゆかりの最後の人物は、風雲急を告げる幕末、薩長同盟の端緒を開くなど維新史に大きな足跡を残した筑前勤皇党の首魁平野國臣の登場です。

党首とも言うべき加藤司書と共に藩政を勤皇二色に纏めた平野國臣の活動は、幕府のみならず黒田藩内佐幕派からも睨まれた存在でした。

慶応元年の「乙丑の獄」に際し、

捕らえられていけば、当然最高責任者として厳しい処分は免れな

かつたと思われます。國臣は、筑前勤皇党壊滅後、維新に乗り遅れた感のある福岡藩の中では、最も活躍した勤皇の志士でした。

ここでは、國臣の主な活動と残した詩歌を辿ってみましょう。

國臣は、文政11年3月福岡藩士平野吉郎右衛門の次男に生まれ、名は次郎。漢学を亀井南冥の孫亀井陽春に、国学を富永漸斎に学び、尚古主義に傾倒していきます。



平野二郎國臣

ペリーが来航した年に二度目の江戸勤番となり、剣道と詩歌の修養に励みました。

「大君に 捧げまつりしわが命 今こそ捨つる時は来にけり」

「いとをしみ悲しむあまり
捨てし子の

声立ち聞きし夜もありけり」

「天津風吹けや錦のはたてには
摩かぬ草もあらじとぞ思ふ」

「君が代の安けかりせば
かねてより
身は花守となりてんものを」

笛も良くした國臣は、「国が平和であつたら、自分は詩人や文学者のような芸術家になつただろう」とその胸中を詠じています。

長崎勤番後は、梅田雲浜と出会う国事についての知識を得ています。31歳で脱藩、志士時代の活躍は目覚ましく、京で西郷隆盛と知り合い、公家との運動を担当。勤皇僧月照とも親交を深め、その後、月照を薩摩へと護衛したことはよく知られています。その前後の國臣の心情は和歌「わが胸の…」の歌に込められています。

錦江湾で西郷を救出した國臣は、薩摩を追放され筑前へ戻りました。その後、再び京へ上りますが、安政の大獄の嵐が吹き荒れていたため、

長州へ向かい、ここで井伊大老暗殺計画を企てました。結局、桜田門外の変起こり、黒田藩は事前に井伊暗殺計画を知っていた國臣を捕縛に向かいますが、國臣は肥後や薩摩を転々とし、その間、真木和泉守や薩摩藩士と交流を深めました。

その後、藩主への嘆願を試みるも、捕らえられ福岡へ護送され柙木屋の獄に入牢の身となりました。

國臣の「獄中の作」は、「黒田藩は自分を罪人扱いするが、朝廷は忠義を認めてくれたので、少しも恥じることはない」との心情を賦したものです。

「縦令 藩人 賊生と評するも
天朝 我を容れて 忠名を下す
十年の辛苦 今 已に 解け
黙笑して 獄中に 落成を 待つ」

情勢が再び勤皇派に有利となつた文久3年釈放された國臣は学習院出仕に任じられたが、これは相当な大抜擢でした。

しかし、京都では「八月十八日の政変」という大事件が勃発、勤皇派は壊滅状態で、天誅組も既に敗走、國臣らは生野での挙兵を試みたが、時すでに遅く失敗に終わったの

です。國臣は、捕縛され京の「六角獄舎」につながれたのでした。元治元年7月、禁門の変に端を発した発生した火災は、獄舎に飛び火、治安の悪化を恐れた役人は囚人の処刑を決断、30名以上の囚人と共に斬首されました。國臣、享年37歳でした。



平野二郎國臣銅像

辞世の和歌と漢詩が各々数首残されていて、折に触れて死を覚悟していたことが偲べれます。和歌と漢詩両方の辞世を残したのは、大層稀なことです。

又、福岡市博物館には、國臣が愛玩した横笛一本が展示されているそうです。

「年老し 親の嘆きは いかならん
身は世の為と 思ひかえても」
「見よや人 嵐の庭の もみじ葉は
いづれ一葉も 散らずやはある」

「ますらおの 尽くす誠の
おおかたは

百世の後や 人に知られむ」

述 懐 (辞世)

「龍領 虎口 斯の躬を 寄す
半生の功名 一夢の中

他日 九原 骨を埋むるところ
刑餘 誰か又 孤中を 認めん」

國臣が処刑直前に賦したと伝えられる次の詩は、当時大変珍しく詩経と同じ四言句です。

「憂国十年 東に走り西に馳す
成敗天に在りて 魂魄地に帰す」

本格的に漢詩と和歌を学び、三条実美公に見込まれ、学習院に出仕したほどの國臣らしい格調高い詩文です。

黒田藩を激震させた筑前勤皇党関係者弾圧事件「乙丑の獄」の顛末の項はこれにて終了と致します。

【諫山岳陽識】

- ◎参考文献「博多に強くなるろう」
- ◎福岡史伝「乙丑の獄」
- ◎野村望東尼日記「夢かぞえ」

西山啓峰先生
日本吟詠総連盟 新理事長就任祝賀開催!!

五月に日総連の新理事長に就任された西山啓峰先生の祝賀会が、去る七月十五日(土)ホテル日航都久志の間に於いて盛大に開催された。

祝賀会には、実行委員会の中心となった福岡吟詠剣詩舞連盟及び日本吟詠総連盟九州地区本部の役員と会員が多数出席して始まった。開宴に先立ち総合同会者の森友松圭先生より、実行委員の紹介が行われた。



祝舞の行武蘭洲先生



名司会中の森友先生

祝賀会に相応しく、日本舞踊藤間流名取の藤間豊澄美先生(県吟連行武蘭洲先生)の華やかな祝舞で開宴。

続いて、名ナレーターの西村先生によるスライド映写が行われ、西山先生の幼少年時代から現在までの吟詠活動が紹介された。

主催者挨拶は、日総連副会長の村上英峰先生が行い鏡開きに移った。

登壇者は、主賓の西山先生、村上先生、加藤先生と長谷川先生の五名で、勢いよくかけ声で鏡が開かれた。



鏡開き風景

続いて、乾杯に移り、九州地区事務局長 長谷川有暁先生のご発声で乾杯を行った。



乾杯の音頭の長谷川先生

乾杯後の歓談タイムの後方ラオケが始まり、自慢のソドが披露された。

主賓挨拶では、西山啓峰先生が出席者への謝辞を述べ、今後の協力を要請された。



謝辞を述べる西山理事長

宴もたけなわとなったが祝賀会に相応しく、博多祝い歌の「祝いめでた」を唱和後、出席者全員による博多恒例の「手二本」で祝賀会が締められた。

閉宴の挨拶は、実行委員長の加藤鳳山先生が行い、閉会となり、約100名の出席者は、美味しい料理と楽しい雰囲気の中で、各自会場をあとにした。

新シリーズ シリーズ①

我が家の
座右の銘

宗師 野村 聡陽

私は七男坊で、弟が一人、姉が二人。全部で十人兄弟であるが、双子の兄二人が生まれてすぐ亡くなり、もう一人は小学四年で亡くなっている。記憶にあるのは、七人の兄弟である。

父が保証人倒れで、八女市から上秋月町に移り住んで、私と弟が生まれているためか、七人しか記憶にないのかも知れません。

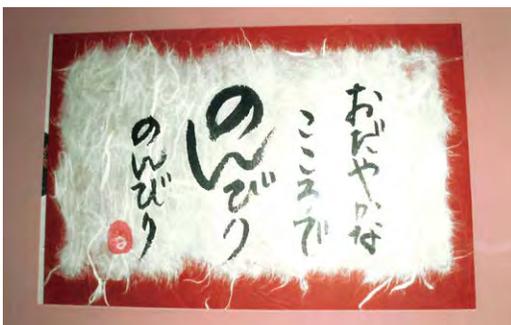
よく、子供の時に言われていたことが、「何をやるにも手を抜くな。二所懸命であれ。」そして「人様から後ろ指を指される事だけはやるな」と言われておりました。それと、高校までは行かせるので、後の人生は自分で考えろ。又旅立った後は、年一回は、身一つでいいから、元気な顔を見せてくれ、これが親の願いであったように思います。

兄弟は多かったが、親は一人ひとりを信頼していたように思います。私と弟は、正月とお盆は、兄、姉のお土産が楽しみで、家も御馳走を作って待つのが習慣でした。現在でも、我が家では、正月、盆は、孫まで含めて一緒に食事をするのが習慣になっています。

一昨年、兄二人が旅立ち、下の姉と二人きりになりました。

今、私がお願いしていることは「一家団欒」。和気藹藹と話しあえることです。

又、八十歳を越えた今、自分で気をつけていることを紹介します。



春季大会 (第二部) 開催

最優秀吟士権 蒲池勝峰さん(太宰府星陽会)

本会第六〇回春季吟詠大会が、四月二十三日(日)プラムホールコア多目的ホールで開催された。



会詩誘導の長 諫山星陽副会長

この大会は、去る三月二十一日に開催した春季大会第一部入賞者と奥伝皆伝者による競吟大会と位置付けられたものです。会員の吟詠表現力向上を目的として始められ、これ迄六十年間に亘り、営々と続けられています。

本日の大会は、一般の部と吟士権者の部の二部門に分けて実施されました。

吟士権の部では、蒲池勝峰さんが最優秀吟士権者に選ばれました。

蒲池さんには、諫山宗家から「会長杯」と「岳陽杯」が授与されました。



吟士権の蒲池勝峰さん

その他、準吟士権者、最優秀賞、優秀賞、優良賞がそれぞれ授与されました。

大会式典で大会会長として挨拶に立った諫山宗家は「今回は六十回目という記念すべき節目の大会です。九州山口の吟界で、これ程長い間、毎年営々と吟詠大会を開催している吟詠会はごく稀であり、私達は、先人の「努力」と「苦労」に対し、深甚なる敬意と感謝を表さなくてはならない」と述べました。

当日の成績は次の通り。

◆吟士権の部

◎最優秀吟士権

蒲池勝峰(太宰府星陽会)

◎準吟士権

郷原菊峰(岩戸征陽会)

◎第三位入賞

池田莉月(太宰府慧陽会)

○入賞

富永延峰(太宰府綾陽会)

白石承峰(吟友光陽会)

◆一般の部

◎最優秀賞

池田華月(太宰府慧陽会)

◎優秀賞

三浦絹山(岩戸昇陽会)

野中康之(筑紫野観陽会)

久我節峰(岩戸扇陽会)

西光寺季山(岩戸梁陽会)



吟士権の部 入賞の皆さん



最優秀賞 池田華月さん

森永祐山(太宰府君陽会)

◎優良賞

泉田千月(太宰府仁陽会)

中川礼川(太宰府仁陽会)

杉込幸山(太宰府奏陽会)

住田博山(太宰府奏陽会)

萱嶋桃峰(太宰府星陽会)

原 信山(太宰府星陽会)

宗 國山(太宰府星陽会)

平井幹川(小郡星陽会)

梅寄道山(太宰府恵陽会)

江藤徹月(太宰府恵陽会)

中川万峰(太宰府君陽会)

今泉鶴山(太宰府君陽会)

古賀箔峰(代表)(岩戸扇陽会)

鬼塚鶴峰(岩戸扇陽会)

田中五川(岩戸扇陽会)

松原武山(筑紫野観陽会)

首藤伸峰(岩戸佳陽会)

中垣千山(香椎晴陽会)

田中煌峰(太宰府燦陽会)

河村光山(愛宕西陽会)

野口柳川(愛宕西陽会)



昇伝者の皆さん



優秀賞ほか上位入賞の皆さん

沖 幸川(太宰府紘陽会)
樋口恵山(岩戸梁陽会)
野村正峰(筥陽会)
岡部兼月(筥陽会)
芳澤佳川(筥陽会)
坂本綾峰(雅陽会)
柴田徳峰(雅陽会)
栗須弘峰(雅陽会)
長澤竹山(吟友宝陽会)
小野律山(太宰府啓陽会)
小路糸峰(吟友光陽会)
森 友子(吟友光陽会)
山本喜久山(筑紫野学陽会)
藤田夏山(太宰府正陽会)



開会のことば 鳥井幸陽大会顧問

尚、当日は、春の指導者授伝式が執り行われ、諫山宗家より昇格者一人ひとりに吟道証が手渡された。
大会の最後は、鳥井顧問による閉会の言葉が述べられたが、いつも乍らの含蓄のある素晴らしい挨拶でした。



昇伝者の皆さん



昇伝者の皆さん

九州吟詠剣詩舞連盟吟詠大会

一位に 池田夏音さん 池田華月さん
最優秀吟士権に 中島光陽宗師範・橋口康陽総師範

九州吟詠詩舞連盟主催の
第五十二回春季競吟決選大会
は、令和五年四月二十九日
(祝)太宰府のプラム・カルコア
多目的ホールで開催された。



開会の言葉の諏訪先生

理事長の諫山岳陽先生が
第五十一回目の大会が盛会裡
に開催されることは、誠に意義
深く、心からお祝いを申し上げ
ると挨拶された。当日は福岡、
北九州、筑後、長崎各地区
予選大会を通過した優秀な
吟士と、昨年度までの優勝者
による最優秀吟士の部で、日
頃の成果を発表した。



成績発表中の野村聡陽先生



審査規定発表 坂口篤壽大会副会長



大会会長挨拶を述べる諫山理事長

当日の成績は次の通り。
●幼少年の部
○一位
池田夏音(太宰府慧陽会)



幼少年の部1位
池田夏音さん

●青年の部
○一位 池田華月(同)
○二位 池田莉月(同)



青年の部1位 池田華月さん
2位 池田莉月さん

●熟年の部
○二位 廣橋岬陽師範代



熟年の部 2位
廣橋師範代

○三位 今村利月
(太宰府啓陽会)

●高年二部
○一位 林谷典陽師範代
○二位 吉弘翔陽宗師範
○三位 池田慧陽師範
○四位 森本賢陽師範代
○五位 白石承峰
(吟友光陽会)



高年2部 3位 池田師範
2位 吉弘宗師範
1位 林谷師範代

○入賞
富永延峰(太宰府綾陽会)
内田龍陽師範代
森 令陽師範
土屋彩陽師範代
白石湊陽師範代
坂本恭陽師範代
郷原菊陽(岩戸征陽会)
久我節峰(岩戸扇陽会)
○奨励賞
吉村孔陽師範代
近藤晴陽宗師範
山田啓陽宗師範
北川英陽宗師範

●高年一部
○四位
杉谷玲峰(香椎了陽会)
○五位 松岡葵陽師範代
○六位 上野詩陽師範代



喜びの上位入賞者

○入賞

古賀誠陽宗師範
竹内恵峰(香椎晴陽会)
田中了陽宗師範
矢津田煌陽師範代
成海宝陽宗師範
小野律山(太宰府啓陽会)
森田綾陽師範
恵内隆陽師範代

○奨励賞

河原田和陽師範
和歌の部
○一位 吉弘翔陽宗師範



和歌の部 1位
吉弘翔陽宗師範

この度、思いがけず九吟連
春季競吟大会で第一部最優秀
宗師範 中島 光陽

吟士権を頂いて



閉会の言葉の
山下白峰大会副会長

- ◎三位 白石湊陽師範代
- ◎五位 池田慧陽師範
- ◎入賞
 - 山田啓陽宗師範
 - 林谷典陽師範代
 - 森本賢陽師範代
 - 竹内恵峰(香椎晴陽会)
 - 田中了陽宗師範
 - 恵内隆陽師範代
 - 廣橋岬陽師範代
- 奨励賞
 - 河原田和陽宗師範
 - 小野律山(太宰府啓陽会)
 - 檜原智陽師範代
- 最優秀吟士権の部
 - ◎第一部
 - ◎優勝 中島光陽宗師範
 - ◎第二部
 - ◎優勝 橋口康陽総師範



最優秀吟士権第一部 中島光陽宗師範
最優秀吟士権第二部 橋口康陽総師範

吟士権を頂戴しました。これも偏に特別研修で熱心にご指導下さった宗家先生のお陰と感謝しております。立派な賞状と盾を頂き歴代の受賞者の名札に自分の名前も加わると思うと、身の引締まる思いです。

これからも吟道に精進し九吟連の大会に微力ながら尽力していきたいと思えます。ありがとうございました。

総師範 橋口 康陽

第二部最優秀吟士権を頂きありがとうございます。これも宗家先生、前田明陽先生を始め、皆々先生方のおかげと感謝致します。本当に有り難うございました。これからも賞に恥じない様に頑張りますので、よろしくお願致します。

「漢詩と諺」

シリーズ

No.16

國破れて山河在り

この言葉の典故は、杜甫の「春望」です。

國破れて山河あり
城春にして草木深し

「國破れて」というと、七十八年前の、日本がアメリカと連合国に敗けた時の事を思い出します。

アジア、アフリカの国々は、ことごとく白人の国の植民地になっており、同じ有色人種の中国は白人国と手を組もうとしているので日本は、有色人種国でただ二国だけで白人の国々と戦わなくてはなりませんでした。

山本五十六大将は、真珠湾攻撃の前に開戦通告をするよう固く日本政府に頼んでいたのに、大切な通告は何故か米国には伝わっていないといわれ日本はだまし討ちの汚名をさせられました。以後は容赦ない焦土作戦のあげく、原子爆弾を二個も落とされ、とうとう日本は敗れました。

しかし日本の四島(北海

道・本州・四国・九州)と天皇(國體)だけは、日本人の手に残りました。

復員兵や外地からの引き揚げの人達も帰って来て、皆、死にもぐるいで復興の為に働き、日本を復活させました。

第2次大戦後、イギリスの植民地だったインドをはじめ、アジアの国々が植民地から独立し、後にアフリカの各国も植民地から独立します。

わずか八十年の間に、世界中の植民地がなくなったのです。

驚くべきことと思います。

國破れて山河在り
城春にして草木深し
時に感じては花にも涙を濺ぎ別れを恨んでは鳥にも心を驚かす
烽火三月に連り
家書万金に抵る
白頭搔けば更に短く
渾て簪に勝えざらんと欲す

春の祭典

令和五年五月二十二日(日)
太宰府プラム・カルコアで、太宰府市文化協会主催の春の祭典が開催された。

太宰府市吟詠剣詩舞連盟からも、合吟(花月吟 藤野野山)と、平山恵陽宗師範の地吟、松嶋蓮陽宗師範の詩舞「白鷺城」基鷺会からも詩舞二つで、華やかな舞台となった。



大合吟「花月吟」



詩舞「白鷺城」

第45回 毎日吟士権本選大会

吟士権Ⅱ平山恵陽宗師範(高齢者三部) 準吟士権Ⅱ野村真陽宗師範(高齢者二部)

令和五年五月十四日(日)
(毎日新聞社主催、RKB毎日放送、スポーツニッポン新聞社後援)の決選大会が太宰府市のプラムカルコアで開催された。



開会のことばの
山中鈴篤先生

この大会は九州、山口、島根の各県から予選を勝ち抜いた二十四名が各部門の吟士権を目指して、日頃の成果を披露した。
尚、当日は諫山宗家が常任審査員として競吟上の注意を発表した。



競吟上の注意を述べる
諫山常任審査員

当日の入賞者は次の通り。
◆幼少年の部
○第三位
池田夏音(太宰府慧陽会)

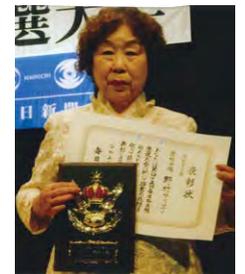


池田夏音さん(左)
幼少年の部第3位



城井謙治
大会委員長

◆和歌の部
○入賞
平山恵陽宗師範
松木燦陽宗師範
森田綾陽総師範
池田慧陽師範
中内鶴峰(太宰府恵陽会)
恵内隆陽師範代
◆高齢者の三部
○吟士権
平山恵陽宗師範
○第三位
松嶋蓮陽宗師範
○入賞
榑崎忠陽総師範
松木燦陽宗師範
◆高齢者の二部
○準吟士権
野村真陽宗師範



高齢者2部準吟士権
野村真陽宗師範

○入賞
山口呂陽宗師範
池田慧陽師範
林谷典陽師範代
◆高齢者の一部
○第三位
梁池梁陽宗師範



高齢者1部第3位
梁池梁陽宗師範



講評中の山中梅鈴先生

○入賞
久保山孝陽宗師範
石橋舟月(吟友忠陽会)
◆一般の三部
○入賞
森田綾陽総師範
講評は、常任審査員の山中梅鈴先生が行い、ユーモアを混じえた内容に盛大な拍手が贈られた。



閉会の言葉の
富永岳誠先生

最後は富永岳誠先生の閉会の言葉で大会を終了した。

吟士権受賞の喜び

宗師範 平山 恵陽

去る五月十四日(日)第四十五回毎日吟士権大会が太宰府市中央公民館で実施された。コロナで二、三年の空白はありましたが、各部門で長年挑戦してまいりました。この度、高齢者三部で運良く念願の吟士権を受賞出来ました。感無量です。これから百歳時代を迎え舞台に立てるにはまず、心身共に毎日を健康に留意し初心を忘れずに継続して参りたいと思います。
次は和歌の部門にも挑戦したいと思っています。すべての皆様に感謝申し上げます。



高齢者三部吟士権
平山恵陽宗師範

吟 声 人 語

今夏の異常高温は格別に感じられた。世界気象機関は「地球温暖化」を終え、「地球沸騰の時代」が到来したと発表した。

▼そう言えば、今年の花々は、春先からこの夏にかけて平年より一ヶ月余り早く咲き、花々散つてしまつたように思われる。

▼太宰府天満宮の花菖蒲も早く咲き終つたし、お寺の蓮の花々もお盆まで待つてくれなかつたようだ。

▼私達は、後世に美しい自然を残さねばならないと声を大にして叫んでいるが、温暖化どころか、灼熱化した地球を残す破目になりそうで、将来が大いに危ぶまれる事態となつていきます。

▼私達に出来ることは限られていますが、せめて自然破壊に繋がるような行動は厳に慎みたいものです。

▼久々の吟春到来で、大いに盛上つた吟界であったが吟秋の催事も華やかに、艶やかに開催されることを心から願っています。秋季大会を成功させましょう。(岳)

第三十四回 和歌朗詠大会

吟士権者に白石承峰さん

第三十四回和歌朗詠大会が六月四日(日)プラム・カルコア多目的ホールで開催された。



審査上の注意
波邊昇陽理事長



会詩合吟
古澤奏陽大会副会長



開会のことば
大会本部長 高木仁陽先生

大会会長諫山宗家は、ご挨拶の中で「全国の吟界を見渡しても「和歌朗詠」に特化した吟詠大会を開催している吟詠

会は大変希なことであり、現在の吟詠大会で和歌朗詠部門の活況を考えると朗詠チームの到来を予見し、先取りした正に「先見の明」であったと言うことが出来そうです」と述べられた。



筑前今様合吟
諫山星陽大会副会長



諫山岳陽大会会長の挨拶

当日の成績は次の通り。

吟士権の部

◎最優秀吟士権者

白石承峰(吟友光陽会)

◎準吟士権

久我節峰(岩戸扇陽会)

◎第三位

中内鶴峰(太宰府恵陽会)

一般の部

◎最優秀賞

藤波純山(岩戸扇陽会)



最優秀賞の藤波純山さん

◎優秀賞

- 山口真峰(太宰府蓮陽会)
- 恵内瑞峰(雅陽会)
- 今村利月(太宰府啓陽会)
- 小野律山(太宰府啓陽会)
- 石橋舟月(吟友忠陽会)



優秀賞の皆さん

◎優良賞

- 益永時月(太宰府仁陽会)
- 泉田千月(太宰府仁陽会)
- (代)中川礼川(太宰府仁陽会)
- 萱嶋桃峰(太宰府星陽会)
- 宗 國山(太宰府星陽会)
- 平嶋和山(太宰府星陽会)
- 城 桜山(太宰府星陽会)

- 原 信山(太宰府星陽会)
- 蒲池香山(太宰府星陽会)
- 安枝昭山(太宰府星陽会)
- 石井善川(小郡星陽会)
- 今泉鶴山(太宰府君陽会)
- 古賀箔峰(岩戸扇陽会)
- 鬼塚鶴峰(岩戸扇陽会)
- 岡田洋月(岩戸扇陽会)
- 田中五川(岩戸扇陽会)
- 石塚宝山(筑紫野観陽会)
- 早野俊川(朝倉英陽会)
- 首藤伸峰(岩戸佳陽会)
- 牧野隆峰(香椎晴陽会)
- 中垣千山(香椎晴陽会)
- 冲 幸川(太宰府紘陽会)
- 西光寺季山(岩戸梁陽会)
- 野村正峰(筥陽会)
- 芳澤佳川(筥陽会)
- 坂本綾峰(雅陽会)
- 栗須弘峰(雅陽会)
- 森 友子(吟友光陽会)
- 富永延峰(太宰府綾陽会)
- 藤田夏山(太宰府正陽会)

◎奨励賞

- 栢込幸山(太宰府奏陽会)
- 吉川栄月(太宰府星陽会)
- (代)植田幽川(小郡星陽会)
- 梅寄道山(太宰府恵陽会)
- 中川万峰(太宰府君陽会)
- 北川忠峰(朝倉英陽会)
- 河村光山(愛宕西陽会)
- 中山由美子(岩戸梁陽会)
- 中野香川(北野真陽会)
- 柴田德峰(雅陽会)
- ◎新人奨励賞
- 森山義幸(小郡星陽会)

- 金丸利恵(岩戸梁陽会)
- 森 友子(吟友光陽会)
- 高津一枝(吟友康陽会)
- ◎特別奨励賞(八十歳以上)
- 奥山静山(岩戸扇陽会)
- 田中五月(岩戸扇陽会)
- 服部征山(香椎晴陽会)
- 野口柳川(愛宕西陽会)
- 岡部兼月(筥陽会)
- 乾 栄峰(吟友忠陽会)
- ◎優良賞
- 池田夏音(太宰府慧陽会)



閉会の辞
鳥井幸陽大会顧問



表彰中の諫山宗家



幼年の部優良賞
池田夏音さん

第三十回 太宰府天満宮杯吟詠大会

福岡地区予選大会

西日本地区吟詠剣詩舞連盟(諫山岳陽会長)主催、第三十回太宰府天満宮杯福岡地区予選大会が、六月十一日(日)プラム・カルコア太宰府で開催された。

本会から各部門において多数の方々が入賞を果たし、決選大会へ駒を進めた。



二部門トップ入賞の折居英峰さん

当日の成績は次の通り。

●一般二部

○入賞

廣橋岬陽師範代
船木涼陽師範代

●高齢者一部

○入賞

鳥井幸陽宗師
橋口康陽総師範
富田皓陽師範



幼少年の部と一般二部の入賞者

富永延峰(太宰府綾陽会)
鳥飼公陽師範代
江藤炎陽師範代
森永祐山(太宰府君陽会)
松嶋蓮陽宗師範
内田龍陽師範代
森 令陽準師範
白石承峰(吟友光陽会)
山田啓陽宗師範
山口呂陽宗師範
萱嶋桃峰(太宰府星陽会)
野村真陽宗師範
藤波純山(岩戸扇陽会)
土屋彩陽師範代
池田慧陽師範

○奨励賞

有岡紘陽宗師範
泉田千月(太宰府仁陽会)
中島江陽師範代

加藤督陽宗師範
原 信山(太宰府星陽会)
松浦菊陽師範代
白石紀峰(玉陽会)
大神靖陽師範代

●高齢者一部

○入賞

田中観陽宗師範
蒲池勝峰(太宰府星陽会)
本田雅陽宗師範
吉弘翔陽宗師範
柴田聖陽師範代
安永奈峰(香椎了陽会)
森本賢陽師範代
稲毛紅陽師範代
中尾映陽師範代
久我節峰(岩戸扇陽会)
郷原竹陽師範代
竹内恵峰(香椎晴陽会)
山口皇陽準師範
石橋舟月(吟友忠陽会)
上野詩陽師範代
成海宝陽宗師範
山口真峰(太宰府蓮陽会)
久保山孝陽宗師範
杉谷玲峰(香椎了陽会)
森田綾陽総師範

○奨励賞

河村光山(愛宕西陽会)
白石湊陽師範代
安枝昭山(太宰府星陽会)
高山寺季山(岩戸梁陽会)
坂本綾峰(雅陽会)
武内史陽師範代
古賀西陽宗師範
城 桜山(太宰府星陽会)
佐々木明月(北野真陽会)
田中了陽宗師範

河原田和陽宗師範
福山博峰(香椎晴陽会)
松岡葵陽師範代
榎原智陽師範代

●和歌の部

○入賞

井上寿峰(岩戸昇陽会)
松嶋蓮陽宗師範
平山恵陽宗師範
野村真陽宗師範
池田慧陽師範
蒲池勝峰(太宰府星陽会)
吉弘翔陽宗師範
柴田聖陽師範代
郷原竹陽師範代
佐々木明月(北野真陽会)
矢津田煌陽師範代
山口皇陽準師範
田中了陽宗師範
河原田和陽宗師範
上野詩陽師範代
成海宝陽宗師範
久保山孝陽宗師範
松岡葵陽師範代
杉谷玲峰(香椎了陽会)
森田綾陽総師範
香月穂陽師範代
中内鶴峰(太宰府恵陽会)
廣橋岬陽師範代
折居英峰(北野真陽会)

○奨励賞

橋口康陽総師範
森永祐山(太宰府君陽会)
大神靖陽師範代
山田啓陽宗師範
萱嶋桃峰(太宰府星陽会)
本田雅陽宗師範
武内史陽師範代

久我節峰(岩戸扇陽会)
蒲池恵山(太宰府星陽会)
古賀西陽宗師範
坂本恭陽師範代
栗須弘峰(雅陽会)

早野俊川(朝倉英陽会)
恵内隆陽師範代
中島光陽宗師範
倉内京陽師範代
船木涼陽師範代

●一般三部

○入賞

中島光陽宗師範
香月穂陽師範代
中内鶴峰(太宰府恵陽会)
折居英峰(北野真陽会)
倉内京陽師範代

○奨励賞

沖 幸川(太宰府紘陽会)
恵内隆陽師範代

◆特別精励賞(九十歳以上)

鳥井幸陽宗師
有岡紘陽宗師範
橋口康陽総師範

◆特別奨励賞(八十五歳以上)

萩原唱陽師範
富永延峰(太宰府綾陽会)
富田皓陽師範
古賀富陽師範
中島江陽師範代
加藤督陽宗師範



閉会のことばの
吉村本部署務局長

天満宮杯吟士権 決選大会開催

船木さん・折居さんが吟士権

西日本地区吟詠剣詩舞連盟（諫山岳陽会長）主催第30回太宰府天満宮杯吟士権決選大会が八月二十日（日）筑紫野市さんあいホールで開催された。九州山口各地区本部予選を勝ち抜いた優秀な吟士二〇名が出場した。

大会は宮西宏岳会長代行の開会の言葉、物故者への黙祷、国旗に表敬、会詩合吟と続き、競吟に移った。



会詩誘導中の伊藤桜朱先生



開会の言葉の宮西会長代行



大会会長挨拶の諫山会長



大日本正義流武政館 幼少年の舞姿

午後の部は、連盟剣詩舞部門の幼少年達による元氣溢れる剣舞が披露され、満場の観客から盛大な拍手が贈られた。

閉会行事では、諫山会長が、30回という節目の大会を成功させたことに感謝と祝意が述べられ、今後の発展を改めて誓い合った。

表彰式では、吟士権をはじめ上位入賞者の賞状、楯が諫山会長から一人ひとりに手渡された。



和歌の部第3位の久保山孝陽宗師範



吟士権者の船木涼陽師範代

閉会式では、小林龍津大会副会長がユーモアを混じえて挨拶し、大会を締めくくり、再会を誓い合った。
尚、当日は本会会員も多数上位入賞を果たすと共に大会運営にも協力し大会の成功に陰ながら貢献した。
当日の入賞者は次の通り。

◆一般部

◎吟士権 船木涼陽師範代

◆一般三部

◎吟士権 折居英峰
(北野真陽会)

◎第4位 香月穂陽師範代
中島光陽宗師範
倉内京陽師範代



吟士権者の折居英峰さん

◎第4位 安永奈峰
(香椎了陽会)

◎第7位 久保山孝陽宗師範
◎第10位 石橋舟月
(吟友忠陽会)

◎第11位 久我節峰
(岩戸扇陽会)

◎入賞 山口皇陽準師範・森本賢陽師範代・上野詩陽師範代・竹内恵峰 (香椎晴陽会)

◎奨励賞 柴田聖陽師範代・武内史陽師範代・稲毛紅陽師範代・中尾暎陽師範代・蒲池勝峰 (太宰府星陽会)

◎高年齢一部
◎第3位 松嶋蓮陽宗師範
◎第5位 野村真陽宗師範

◎第6位 池田慧陽師範
◎第7位 山口呂陽宗師範
◎第9位 富永延峰
(太宰府綾陽会)

◎入賞 内田龍陽師範代
◎奨励賞 鳥井幸陽宗師範・山田啓陽宗師範・森令陽師範・白石承峰 (吟友光陽会)・藤波純峰 (岩戸扇陽会)・萱嶋桃峰 (太宰府星陽会)

◆和歌の部

◎第3位 久保山孝陽宗師範
◎第4位 折居英峰
(北野真陽会)

◎第5位 野村真陽宗師範
◎第8位 松嶋蓮陽宗師範
◎第9位 池田慧陽師範
◎入賞 河原田和陽宗師範・香月穂陽師範代・佐々木明月 (北野真陽会)

◎奨励賞 吉弘翔陽宗師範・森田綾陽師範・山口皇陽準師範・八津田煌陽師範代・上野詩陽師範代・松岡葵陽師範代・郷原竹陽師範代・蒲池勝峰 (太宰府星陽会)



閉会の言葉の小林龍津先生

ポリドール吟詠会 九州山口 予選大会

優勝 池田夏音(幼少年) 山口呂陽(壮年の部) 折居英峰(和歌の部) 折居英峰(青年の部)

令和五年七月二日(日)、第五十回ポリドール吟詠会全国吟詠コンクール九州山口予選大会が、プラムカルコア太宰府で開催された。



誅山大会会長の挨拶

今回も山口県をはじめ福岡佐賀長崎熊本宮崎鹿児島から多数の吟士が全国大会を目指して、熱吟を披露した。大会当日は総本部より小林快川会長と辰巳快水副会長、会計の山内邦照先生にもご臨席いただき、講評と範吟を頂戴した。



小林快川総本部会長の講評

競吟は幼少年の部、青年一部、青年の部、壮年の部、和歌の部に別れて行われた。

優勝者には太宰府天満宮賞、準優勝者には毎日新聞社賞、総本部より金銀銅メダルが送られた。

又各部門入賞者には、全国出場資格と金メダルが贈られ、優秀賞受賞者には、銀メダルと賞状が贈られた。

競吟後は小林快川先生の講評と辰巳快水先生、山内邦照先生の範吟が披露され、素晴らしい吟に感動した。



範吟の山内邦照先生 (ポリドール吟詠会本部会計)



範吟の辰巳快水先生 (ポリドール吟詠会副会長)

尚、当日の入賞者は、来る十月九日(祝)大東市立市民会館で開催される全国コンクールに出場する。本会からも多数の会員が活躍が期待される。



成績発表の野村大会本部長

本会員の成績は次の通り。

◆幼少年の部 優勝 池田夏音(太宰府慧陽会)

○準優勝 釋迦郡颯斗(宮崎鶯陽会)



幼少年の部 釋迦郡さんと池田さん



壮年の部三位 梁池宗師範 優勝 山口宗師範 中央は準優勝の 英峰会 平田さん

- ◆壮年の部 優勝 山口呂陽宗師範 〇三位 梁池梁陽宗師範 〇六位 萩森鶯陽宗師範 〇九位 柴田聖陽師範代

- 〇十位 杉谷玲峰(香椎了陽会) 入賞 野村真陽宗師範 池田慧陽師範 蒲池勝峰(太宰府星陽会) 吉弘翔陽宗師範 安永奈峰(香椎了陽会) 武内史陽師範代 郷原竹陽師範代 中尾英陽師範代 小野律山(太宰府啓陽会) 惠内隆陽師範代 稲毛紅陽師範代 佐々木明月(北野真陽会) 山口皇陽師範代 田中了陽宗師範 石橋舟月(吟友忠陽会) 河原田和陽宗師範 橋口康陽師範代 中島紅陽師範代 森 令陽準師範 白石承峰(吟友光陽会)



入賞代表の石橋さん(左)と優秀賞代表の城さん(右)

- 優秀賞 白石湊陽師範代 安枝昭山(太宰府星陽会) 柴田勘陽師範 早川俊川(朝倉英陽会) 蒲池香山(太宰府星陽会) 古賀西陽宗師範 城 桜山(太宰府星陽会)

- ◆和歌の部 優勝 江藤炎陽師範代 江藤雄川(北野真陽会)



和歌の部 準優勝 野村宗師範 優勝 折居英峰さん

- ◆優勝 折居英峰(北野真陽会) 〇準優勝 野村真陽宗師範 〇四位 池田慧陽師範 〇五位 廣橋岬陽師範代 〇六位 中島光陽宗師範 〇七位 橋口康陽師範 〇九位 香月穂陽師範代 入賞 萩森鶯陽宗師範 郷原竹陽師範代 古賀西陽宗師範 佐々木明月(北野真陽会) 山口皇陽師範代 河原田和陽宗師範 吉弘翔陽宗師範 柴田勘陽師範 松岡葵陽師範代



閉会のことば
豊福恒陽大会顧問

尚、閉会の言葉は、九州山口本部顧問の豊福恒陽先生が述べ、大会を無事終了した。



青年の部 第三位の香月さん
優勝の折居さん
準優勝の廣橋さん(中央)

- 入賞 倉内京陽師範代
- 三位 香月穂陽師範代
- 準優勝 廣橋岬陽師範代
- 優勝 折居英峰(北野真陽会)
- ◆青年の部 白石承峰(吟友光陽会)
- 優秀賞 蒲池勝峰(太宰府星陽会) 溝口静峰(岩戸征陽会) 森 令陽準師範

「我が家の家宝」
シリーズ 39

総師範 橋口 康陽

私は昔の満州におりました。引き揚げの時に、すべて売ったり捨てたりしましたので何にも残っておりません。でも一番の宝物があります。それは両親です。載せていただいた写真、私が五年生の時、両親と仲良くお付合をしていた、おじさんとおばさんです。この頃の私は甘えん坊で、

学校から帰って母がいないと、社宅中に聞こえる声で泣いていました。そうしたら、おばさんが私をよび、母が帰る迄、自分の家に置いて下さっていました。社宅は三階建十二戸の建物でした。そんな社宅が一里位建っている広い所でした。私は、そんな広い所で両親に育てられました。六年生の時、弟が生まれて、



とても嬉しかったです。女学校に入学した年の八月終戦。その後色々ありました。が、二十二年八月に日本へ帰りつきました。その後色々ありますが、今が一番幸せです。吟を習い始めて、その奥の深さについて行けなくなつてやむこともあります。でも吟じていると、とても幸せです。これからもよろしくお願ひ致します。

会員投稿

師範代 林谷 典陽

●足腰の丈夫がくれた 旅の美味

●喉元過ぎて 辛酸の日々 懐しむ

●寡婦の道 花は散つても 葉は繁る

●百才を 目指して握る パスポート

●夢描く 絵具一式 買いに行く

●一人膳 慣れてはいるが 春の鬱

●紫に染まり 紫陽花寺を出る

●愛された 温もり抱いて 冬を越す

●とつとつとあふれる程が 丁度良い



令和4年度 本部研修皆勤者

令和4年6月〜令和5年5月の本部研修会皆勤者が発表され、7月の指導者会議の席上、諫山宗家より、二人ひとりに皆勤賞が手渡された。

- 後藤佳陽宗師範
- 岸 凜陽宗師範
- 古賀西陽宗師範
- 野村真陽宗師範
- 田中了陽宗師範
- 山田啓陽宗師範
- 中島光陽宗師範
- 前田学陽師範
- 柴田勘陽師範
- 富田皓陽師範
- 山口皇陽師範
- 森 令陽準師範

亀井神道流西日本吟詠会
ホームページご紹介



ホームページアドレス <https://kameigin.com/>

岩屋城戦没者追悼法要で 献詠||諫山宗家

第438回岩屋城戦犠牲者を追悼する法要が去る七月二十七日(木)午前10時30分から太宰府市宰府西正寺にて厳粛に執り行われた。

西正寺山内真隆住職の読経の後、法話に続き西正寺縁起について詳しいお話があった。

引き続き、諫山宗家のご仏前に進み、岩屋城主高橋紹運公の辞世の和歌及び秋月仏心寺住職茂林和尚の「偈」(岩屋城の将兵を弔う)を献詠、献吟した。

この法要は、岩屋城落成の七月二十七日に、営々と続けられ、今年では第四三八回目の法要となった。

諫山宗家は、昭和六十年岩屋城址で行われた「岩屋城落城400年戦没者慰霊祭」で弔吟を献詠、爾来、今年まで三十八年間毎年献詠を続けています。

紹運公辞世

「流れても 末の世遠く

名をや岩屋の

埋もれぬ

苔の下水」

茂林和尚「偈」

「一将功成りて

九州に冠たり

戦場の血は

染川に入つて流る

人を殺すの刀は是れ

人を活かすの剣

月白く 風は高し

岩屋の秋」

ここに、西正寺前住職、山内勇哲様が残された「岩屋城西正寺縁起」の一部を抜粋し紹介いたします。

「岩屋山西正寺縁起」

戦国時代、豊臣秀吉が天下統一をする前、九州は南に島津氏、北に大友氏が勢力を伸ばしていました。

その大友の輩下はいかに高橋鑑種たかはし かんしゅという武将がいて、永祿二(一五五八)年筑後の高橋城を出て宝満城岩屋城などを築き、主に筑前を守護していました。

その鑑種は、故あつて城を追われ、このあとに大友の一族吉弘家から忠四郎鎮種ちんしゅを迎えて高橋家を継がせました。この鎮種が仏門に入り高橋紹運しゅんと言います。

島津氏は勢力を拡大し、九州全土を手中に収めようと、次第に北上、阿蘇草野・秋月・原田竜造寺等の諸氏を従え、岩屋城に迫りました。紹運以下七六三名という少数の兵で守る岩屋城を数万という大軍をもつて包囲し攻め立てました。天正十四(一五八六)年七月二十七日、紹運は、

将兵の墓を造つて弔い、姓を山内、名を正順と改め、西正寺の開基となりました。

流れての末の世遠く
埋もれぬ

討死した紹運の首を島津がた本陣(般若寺跡の高台)に運び、首実検のあと丁寧に葬りました。

名をや岩屋の苔の下水

今に紹運公首塚として残されています。(日本経済大学の門前道をはさんでの高台)

名をや岩屋の苔の下水

紹運よりいただいたといえるといふ仏像は、今も西正寺に伝えています。作者や製作年代はつきりしませんが、お正信偈の始めの方にあります「法蔵菩薩五劫思惟像」と考えられます。

「阿弥陀仏」に成られる前のお姿と言われます。かすかに見える墨書を参考にしますと、寛弘(一〇〇五)年源信作(正信偈)に出る七高僧の一人)といつことず。

なご現在も落城の日(七月二十七日)に西正寺では毎年追悼法要を行っています。主に戦死者の子孫たちが参加します。

さて、この決戦を前にして紹運は一人の武将藤内左衛門丞重勝しげかつを呼び寄せ、「お前は年若い、信心深いので、この仏像を持つて山を下り、なまき将兵たちを弔うように」と命じました。重勝は現在地に庵わらを建て、仏像を安置し、岩屋城あとに

紹運の長男統虎むねとらは、立花家の養子となり立花宗茂と言います。秀吉より柳川十二万石を与えられ柳川城主となりました。

次男統増むねますが高橋家を継ぎ、のちに姓を立花に改め大牟田三池の城主となりました。

前者は現在柳川市にある料亭「お花」で、後者は明治になり三池を離れ、神奈川県に在住です。法要の時には参列されます。

西正寺の開基正順は、のちに浄土真宗に属し、現在の住職(釈真隆師)は十九代目に当ります。



紹運公菩提寺西正寺



岩屋城址の石碑「嗚呼壯烈岩屋城」

転倒予防

転ばぬ先の杖を!!

西日本吟詠会会員も高齢化が進み、転倒による骨折で入院、通院する人が急増しています。

転倒は、とつても危険で介護が必要となったり、寝たきりにつながったり、好きな詩吟教室にも参加出来なくなったり、又、家族の人に迷惑をかけることになったりで良いことは一つありません。

転倒事故の5割は自宅で発生!!

高齢者のけがの半数は転倒が原因で、転倒した場所も約半分が自宅で発生しています。

又、転倒した人の4人に1人が骨折で、介護や介助が必要になった原因のうち骨折や転倒が第1位で2割を占めています。

転倒の原因は?

転倒の原因には、自宅の段差などの環境上の原因によるものと、脚力の低下やバランス感覚の衰えなどの身体機能の低下によるものが考えられます。

転ばない環境作り

浴室

お風呂は危険がいっぱい。

浴室はすべり易く、転倒事故が起りやすいところ。

自宅の風呂で亡くなった方の90%が高齢者です。

血圧の急激な変動に注意。手すりやすべり止め設置を!!

寝室

ベッドからの転落事故が多発しています。特に骨折が多いようです。ベッドから起き上がる時は、しっかりと体を支えましょう!!

自宅内の段差

部屋の入口や部屋と部屋の境などの段差には目立つ色のテープ等を貼るなどして段差を認識しやすくしましょう!!

電気製品コード

室内の電気製品のコード類はまとめて壁際に寄せたり、テープなどでしっかりと固定しましょう!!

じゅうたん等

室内のじゅうたんなどの端はしっかりと固定して、つまずかないようにしましょう!!1センチ以下の段差も要注意です。

床の新聞雑等

床においた新聞やビニール袋など床にはものをおかないようにしましょう!!
床にあるとすべり易い。



玄関マット

玄関マットはしっかりと固定したり、すべり止めを下に敷きましょう!!

廊下や階段

暗いところは照明を明るくしたり、手すりの設置を。暗いと段差が見えにくい。

日常生活動作

重いものは、高いところにおかないようにしましょう!!
降ろす時に、安全な脚立等を準備し、慎重に!!
家の中の事故は、慣れと過信が原因。ご用心を!!

転ばない体づくり

日頃から下のような体操をすることで転ばない体をつくりましょう。

ゆっくり大きく 最初は5秒程度から(なれたら10秒くらい)数回行います。

足の体操

朝、起き上がる前などに足の運動を行ってみましょう。

① 足の指の曲げのばし 10回程度

グーバー運動

グー(5~10秒程度) パー(5~10秒程度)

② 足首の曲げのばし 10回程度

曲げる のぼす

首や体の体操

お腹に力を入れることを意識しながら取り組んでみましょう。

① ゆっくりと息を吐きながら 5から10回

② 無理のないように 5から10回

おなかを見るようにしながら背中を丸くします。胸を張りながら体を上に伸ばします。

イスに腰掛け、丸めた新聞紙や棒などを肩幅程度に持って、手のひらを前に向けるように持ったら③④へ。

③ 5から10回

体の横をのぼすように。

④ 5から10回

両手を肩まであげて、手をのばしたまま体を回します。

会員訃報

大田君陽先生ご逝去



あり日の大田君陽先生

こんなに早く君陽先生を偲ぶ言葉をご霊前に捧げることになるとは夢にも思いませんでした。

私が、「太宰府静陽会に大田キミヨという美声の持ち主がいる」と耳にしたのは、入会してからかなりの日月が経つてからでした。

初めて声を聞いた時、確かに美しい声だが、これはまずい!!と思ったのが第一印象でした。

それは、処どころ裏声が混じっていたからでした。

但し、私は、そんなにがっかりもしませんでした。

これまでも、最初裏声の人ほど大成した人があったからでした。

先生は、今から約40年前故岡部静陽先生の教室に入会され、持ち前の頑張り屋さんを發揮され、メキメキ上達されました。

入会後の吟歴欄のように順調に昇伝、昇格を果たされ、本会の競吟大会のみならず、各種吟詠コンクールに於いて常

に上位入賞を獲得されました。

そして、早くも平成七年には、指導者として、太宰府君陽会支部を設立し、後進の指導育成に当たられ、優秀な吟士を多数、育成されました。その中には、既に何人もの指導者がおられます。

君陽先生は、指導の傍ら長年に亘り、本会の幹部として、副理事長兼式典部長の大役を献身的に果たされました。又、対外吟詠コンクールで

は、毎日吟士権をはじめ各種競吟大会で、常に上位入賞を果たされました。

特に、令和元年には、九州吟剣詩舞道連盟吟詠大会に於いて、最優秀吟士権を獲得され、同年の太宰府天満宮杯決選大会でも、最高位の吟士権を獲得され、西日本吟詠会の名声を高められる等、卓越した吟詠家でした。

吟界では、日本吟詠総連盟常任理事、九州吟剣詩舞道連盟本部理事、ポリドル吟詠会専属吟士として大いに活躍されました。

地域の文化活動にも力を注がれ、地元太宰府の市民文化遺産に登録されている「時の記念日」の記念行事に於い

て、長年に亘り、太宰府君陽会として参加され、時の記念日に相応しい詩歌を献吟されて来られました。

更に、太宰府天満宮様主催の曲水の宴では、再三に亘り、朗詠者として参宴され、朗々たる吟声で和歌を披露されました。

正に、地元をこよなく愛し、吟詠を通して、地域の文化活動に貢献された愛吟家でした。



曲水の宴で朗詠する大田先生

君陽先生は、ご逝去の一ヶ月前に最愛のご主人様を亡くされていたにも拘わらず、気丈に喪主を務められました。

誰よりも、家庭を愛し、吟詠を愛し、誰よりも地元を愛し、そして誰からも愛された八十年間でした。

今頃は、相思相愛だったご主人様と、楽しかったこと等沢山の思い出話を花を咲かせておられることでしょう。

先生が残された足跡は、君陽会の皆さんがしっかりと守つて下さると思います。どうか安心して心安らかに眠り下さい。

大田先生御戒名

享年八十二歳

合掌

君陽先生吟歴

- 昭和六十年五月 入会
- 昭和六十年十月 初伝
- 昭和六十三年十二月 中伝
- 平成二年十月 奥伝
- 平成四年十一月 皆伝
- 平成七年五月 本部師範代
- 平成九年四月 準師範
- 平成十一年五月 師範
- 平成十七年五月 総師範
- 平成二十二年五月 宗師範

君陽先生表彰

- ◆ 創立八十周年永年吟続賞
- ◆ 創立九十周年特別褒章

大田君陽先生を偲ぶ

宗家 諫山 岳陽 会長

大田君陽宗師範が七月十七日に他界されて、一ヶ月半が過ぎました。



会員計報

花田宏陽先生ご逝去



花田宏陽先生

本部監査部及び特別監査部部長代行の花田宏陽先生が、去る七月六日に急逝されました。葬儀は家族葬でしめやかに執り行われております。享年七十六歳。

「花田先生を偲ぶ」
先生が人工透析を行って居られることは承知していましたが、七月十六日、突然の訃報を聞き驚いています。

花田先生は、平成二十一年一月、野村聡陽宗師が指導された「筑紫野聡陽会」に入会され、若い時に音楽をやられた事もあって、音程がしっかりしていた事、持ち前の力強い声に加え、熱心な練習でメキメキと上達されました。性格も、イエス・ノウがはっきりされた方で、実直、正直な方でした。カラオケに行くと、いつもうたわれるのが、世良公則の「あなたのバラード」でした。今でも耳に残っています。身体をこわされ、監査部に



移られましたが、その前の広報部では、「吟友」の表紙の写真、各種大会の写真等よく働いておられ、感心して見ていました。又、本業では野菜、果物を扱う有限会社「丸国」代表として、唯一日曜日だけが休みという、大変忙しい毎日を送っておられました。元氣な姿が、今でもありありと浮かんできます。先生の生前の御功績に感謝と敬意を表わしますと共に、心安らかな「永眠を、お祈り申します。宗師野村聡陽 合掌

花田先生吟歴

- 平成二十二年十二月 入会
- 平成二十四年十一月 初伝
- 平成二十七年十一月 中伝
- 平成二十九年十月 奥伝
- 平成三十三年九月 皆伝
- 平成三十八年十月 指導師範
- 平成三十九年四月 支部師範代
- 平成三十年四月 本部師範代
- 令和元年十月 準師範
- 令和三年四月 師範
- ◆ 創立80年吟統二十年表彰
- ◆ 創立90周年 感謝状受賞

会員投稿

詩吟を勉強して 思うこと

今村 利月(太宰府啓陽会) ● 詩吟との出会い
私が山田先生の教室に通って七年前。
詩吟の印象は、懐メロ路線の私とは真逆の厳格な歌の世界で、多少の躊躇がありました。いざ取り組むと、詩の作者と詩意と背景が教本に丁寧に表示されておもしろ味を深めるのに時間はかかりませんでした。同時に流派の威厳を知ることになりました。ひとつが、揺れを重んじるという事。似たような揺れがあり混乱していましたが、ようやくその揺れに個性があるし表現が多彩ではないかと思うようになりました。微妙な揺れの長さともより、前後の吸息も独特の間になるし、そこに吟の力広がりを感じるのです。

この吟の道を通して成長する自分がいて、その喜びを世間一般の人達にも分かち合えれば、どんなにか、この社会が潤うか、そのきつかけが、もっと増えればいいなと感じています。
● 詩意の表現
和歌や詩吟も作者の心があらります。悲しいからこそ笑みをたたえて歌うか、痛快だからこそ、ひょうひょうと歌うのか。

自分らしい吟の表現を思うとき、幼い時に抱いた素直な感情で唄った童謡を思い出し、ます。
「シャボン玉」 作詞野口雨情
きれいな玉が屋根迄消えずに飛んでくれ！
そんな楽しい歌詞。

作者は紡ぎだした文字を詩に込める。そうやって出来上った詩。
教本で目にする詩は、色あせずそこに佇んで私たちを待つ。多く並ぶ詩から気に入った詩をみつめる。詩そのものの心に素直に向き合い感じたままを表現する。それが作者に対しての礼儀のように感じるし、そうできるように努力したい。

● 詩吟とロマン
詩吟の教本に出てくる人物で加藤司書がいますが、その方の生家が昔住んでいた所のすぐ隣だったのを奇遇に思います。
近くには平尾山荘の野村望東尼。野村さんを慕って高杉晋作が。月形洗蔵、平野国臣など福岡城を軸に往来していたかと思うと、この教本に出会って、こんなに身近に歴史が埋もれていたと気づくことが出来ました。
また太宰府の会場に赴くと、そこは四王子山の麓で、都府楼跡があり万葉の歌人も、この景色のもと詩を詠んだかと思つと、大会に参加してその同じ空気を吸って吟じる事

が出来るなんてと、ひと時の幸せを噛みしめています。
奇遇と思いい、それをロマンと感じる。これまでの自分の柄ではありませんが、本物に出会った時は素直に感謝出来る心は大事にしてゆきたいです。

二〇二〇BOX 浄財ありがとうございました

- 鳥井 幸陽
- 野村 聡陽
- 渡邊 昇陽
- 高木 仁陽
- 松嶋 蓮陽
- 久保山 孝陽
- 平山 恵陽
- 田中 観陽
- 北川 英陽
- 河原田 燦陽
- 古賀 西陽
- 有岡 絃陽
- 吉弘 翔陽
- 石村 笙陽
- 野村 真陽
- 本田 雅陽
- 成海 宝陽
- 中島 光陽
- 橋口 康陽
- 樋崎 忠陽
- 森田 綾陽
- 池田 慧陽
- 柴田 勘陽
- 山口 皇陽
- 大田 史陽
- 武内 典陽
- 林谷 典陽
- 森 令陽
- 西山啓峰先生祝賀会
- 参加者有志一同
- 中島 紅陽
- 白石 湊陽
- 杉谷 玲峰
- 梅寄 道山
- 江藤 徹月
- 古賀 箔峰
- 久我 節峰
- 首藤 伸峰
- 西光寺 季山
- 小野 律山
- 今村 利月
- 森永 裕山
- 郷原 竹陽
- 沖 幸月
- 中内 鶴峰
- 久我 節峰
- 藤波 純山
- 大神 靖峰
- 中川 万峰
- 上田 彰山
- 今泉 鶴山
- 米倉 信陽
- 白石 承陽
- 勝峰 勝峰
- 蒲池 勝峰
- 田中 五川
- 鬼塚 鶴峰
- 土屋 彩陽
- 矢津田 煌陽

新婚当時の思い出

シリーズ 17

宗家会 長 諫山 岳陽
宗伝副会長 諫山 星陽

このコラム蘭への寄稿は「ダイヤモンド婚式」を迎えた時と思っていたのですが、諸般の事情で今号となりました。もうすぐ56回目の結婚記念日を迎えるのを好機として当時は振り返ってみたいと思えます。昭和42年10月岳陽25歳、星陽24歳で、少し早いかなという思いもあつたのですが、私の母の強い希望もあり、再会間もない交際期間で結婚となりました。結婚に際しての要望は、母との同居と最期までの世話だけでしたが、約束通り、自宅で大往生を迎えることが出来るのも感謝しています。

当時、給料も安いし、生活改善普及活動という運動が盛んで、ホテルでの派手な結婚式を止め、質素な式を選んだ次第でした。
式場も、甘木の中央公民館で、主賓は勤務先の上司大竹会計部長と西日本吟道会(現在の西日本吟詠会)の理事長半田晃陽先生で、祝辞と祝吟に感銘を受けました。仲人は、十文字中学校時代の恩師鬼塚先生ご夫妻で、心の籠つたい結婚式でした。式の総費用は引出物代を除き、一万三千八百円也で、月収相当額でし

た。後日、生活帰善普及委員会から表彰状の様なものを頂きました。

新婚旅行は、夜行列車「月光」で京都下車、通称苔寺(西芳寺)を始め市内を見物、都ホテルに泊。翌日は琵琶湖遊覧船で「琵琶湖八景」を見物し、当時勤務先電通の寮の中、最も人気が高かった琵琶湖寮に宿泊。新婚旅行ということでは寮長ご夫妻が良くもてなして頂きました。夕食後、琵琶湖面に映る月があまりにも美しく、庭先で「江月」を吟じていたところ、寮長さんが興味を持たれた様子で、話が弾み二人で飲み直して深夜に及び、翌朝、新婚をほつたらかしてからと、寮長と二人、奥さんから軽く油を搾られたことを思い出しました。その翌日、東京の靖国神社に参拝、戦死した父に



結婚の報告を行いました。当時は、東京に姉二人が住んでおり、上の姉の家に泊めて貰い、兄弟姉妹で話が弾んだことを懐かしく思い出しています。
〔岳陽〕

車中泊も含め四泊五日の新婚旅行を終えて帰宅すると、料理上手な母は、手造りお料理で温かく迎えてくれました。とにかく料理が大好きで、おいしいメニューを考え出すのが得意な上、職業軍人の妻らしく凛として且つ、優しいお母さまでした。未熟な私は実母以上に可愛がって貰った上、色々教わることが沢山あり、同居してよかったと今でも感謝しています。
〔星陽〕

行事予定表

- 9月3日 巨快川吟詠会50周年
- 9月5日 父奥伝皆伝審査大会
- 9月16日 主吟道証清めお祝い
- 10月1日 巨秋季吟詠大会
- 10月8日 巨日総連全国大会
- 10月9日 巨祝ポールドール全国コラール
- 10月22日 巨県吟連秋季大会
- 10月29日 巨松風会70周年
- 11月10日 巨太宰府市吟連40周年
- 11月23日 巨不祝 九吟連秋季大会
- 12月10日 巨日総連九州大会
- 令和6年
- 1月5日 巨新年会
- 2月11日 巨九吟連筑後大会
- 3月10日 巨九吟連福岡大会
- 3月17日 巨春季大会(第一部)
- 3月23日 巨毎日吟士権(1日目)
- 3月24日 巨毎日吟士権(2日目)
- 3月31日 巨毎日吟士権(北九州)
- 3月31日 巨県吟連春季大会
- 3月31日 巨八葉会
- 4月7日 巨春季大会(第二部)
- 4月7日 巨筑吟連大会
- 4月14日 巨吟道奉賛会
- 4月21日 巨桜流周年大会
- 4月28日 巨愛日吟士権本選大会
- 5月6日 巨祝香雲堂桜村会50周年
- 5月12日 巨九吟連決選大会
- 6月2日 巨和歌朗詠大会
- 6月9日 巨天満宮杯福岡大会
- 7月7日 巨ポールドール九州山口大会

よひこそ 西日本吟詠会へ

- ◆ 筑紫野観陽会 仁保憲司 (敬称略)
- ◆ 太宰府奏陽会 大藪晶代
- ◆ 太宰府仁陽会 荒尾和川
- ◆ 太宰府恵陽会 高木珠子

訂正とお詫び

吟友(第八三号)五月号の記事中に誤りがありました。
春季大会令和四年四月二十四日
一般の部 優秀賞
正・池田莉月
誤・池田華月
九吟連予選入賞者もれ
◇ 沖 幸川さん(和歌)

編集後記

吟友の編集にもご活躍された、花田宏陽先生が亡くなられました。あらためてお悔みを申し上げます。広報部員も顔ぶれが変わり、新しい気持ちで、力を合わせて頑張りたいと思います。

広報部員

- 広報部長 船木 燦陽
- 部長代行 山口 皇陽
- 部員 船木 涼陽
- 林谷 典陽

発行者 亀井神道流西日本吟詠会事務局 那珂川市道善三六 渡邊昇陽方
印刷所 井上紙工印刷株式会社